

# 特別養護老人ホーム芦花ホームにおける 「看取り介護」の調査研究報告書

平成 21 年 3 月

社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団

特別養護老人ホーム芦花ホーム



# はじめに

日本は、諸外国がまだ経験したことの無い速さで、超高齢社会を迎えました。

平均寿命が延び、認知症高齢者が増加している中、自宅介護の限界や、病院で治療を受けられない場合の行き先など、多くの課題が出てきました。そのような状況の中、「終のすみか」と称される特別養護老人ホームへの期待が大きくなり、利用者の「看取り」に関する対応を積極的に行っていくことは、今後ますます必要になることであると考えられます。

特別養護老人ホーム芦花ホームでは、平成 18 年 4 月の介護保険制度改正に「看取り介護加算」が位置づけられた 3 年前より、本格的に「看取り介護」に取り組んでいました。

今回の調査は、これまでの取り組みを振り返り、今後さらにより良い看取りを行うために役立てることを目的に実施しました。

ご協力いただきました関係者のみなさまに、この場をかりてお礼を申し上げます。

平成 21 年 3 月  
特別養護老人ホーム芦花ホーム



# 目 次

## はじめに 3

## 1. 社会的背景 2

- 1-1. 超高齢化社会の訪れ 2
- 1-2. 認知症高齢者数の増加 3
- 1-3. 介護報酬「看取り看護加算」創設 3

## 2. 「看取り介護」の条件 4

## 3. 芦花ホームの取り組み 5

- 3-1. 施設と体制の概要 5
- 3-2. 「看取り介護」方針と流れ 6
- 3-3. 「看取り介護」の実績と事例紹介 9

## 4. ヒアリングのまとめ 11

- 4-1. 医師ヒアリングのまとめ 11
- 4-2. スタッフヒアリングのまとめ 13
- 4-3. 入所者ヒアリングのまとめ 15

## 5. アンケートのまとめ 18

- 5-1. ご遺族アンケートのまとめ 18
- 5-2. 他施設アンケートのまとめ 23

## 6. 今後について 28

- 6-1. 成果 28
- 6-2. 課題 28

## 参考資料 31

- 1. 入居者ヒアリング 32
- 2. ご遺族アンケート 36
- 3. 他施設アンケート 42

# 1. 社会的背景

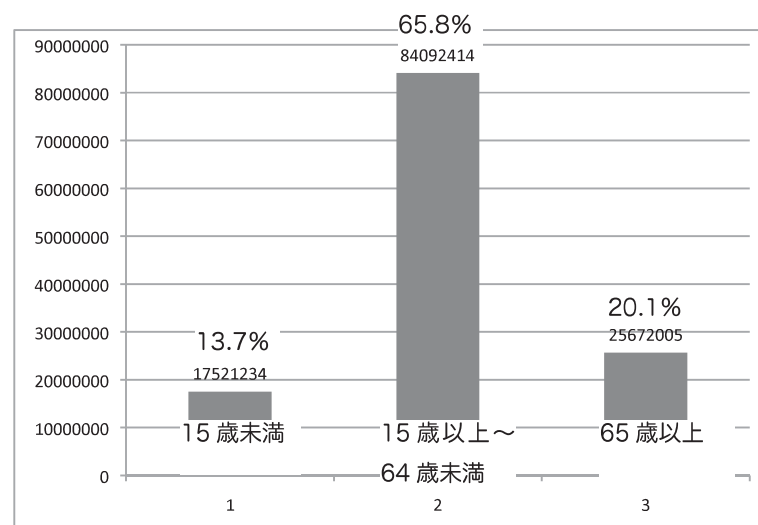
特別養護老人ホーム（以下「特養」という）で「看取り介護」が取り組まれるようになった背景には、次のような社会動向が考えられる。

## 1-1. 超高齢化社会の訪れ

総人口に占める 65 歳以上人口の割合の推移を見ると、第 1 回国勢調査が行われた大正 9 年（1920）以降、昭和 25 年（1950）頃までは 5% 程度の推移だった。その後急上昇し、昭和 60 年（1985）には、総人口の 10% を超えて 10 人に 1 人が、平成 17 年には 5 人に 1 人が、65 歳以上の高齢者となった。

将来的にも 65 歳以上人口の増加は続き、平成 26 年（2014）には、総人口の 25%（4 人に 1 人）が占めると予測されている。（注 1）

平成 17 年国勢調査 年齢別人口



また、諸外国における、超高齢化社会へ移行した年数（総人口に占める 65 歳以上人口の割合が 7% から 14% に達した所有年数）をみると、ドイツは 40 年、イギリスは 47 年、イタリアは 61 年、フランスは 115 年かかっているのに対し、日本は 24 年と短期間で移行している。

以上のように、日本は、高齢化の進展が速く、そして高齢者数が多い、「超高齢化社会」を迎えている。

（注 1：国立社会保障・人口問題研究所の推計（平成 14 年 1 月推計）による）

## 1-2. 認知症高齢者数の増加

平均寿命が延び、高齢化が進むに伴い、認知症高齢者数も増加している。

認知症高齢者数は、平成 14 年（2002）には約 150 万人だったが、23 年後の 2025 年には倍以上の約 320 万人になると推計されている。

| 将来推計      | 2002 | 2005 | 2010 | 2015 | 2020 | 2025 | 2030 | 2035 | 2040 | 2045 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 認知症自立度Ⅱ以上 | 149  | 169  | 208  | 250  | 289  | 323  | 323  | 376  | 385  | 378  |
|           | 6.3  | 6.7  | 7.2  | 7.6  | 8.4  | 9.3  | 10.2 | 10.7 | 10.6 | 10.4 |
| 認知症自立度Ⅲ以上 | 79   | 90   | 111  | 135  | 157  | 176  | 192  | 205  | 212  | 208  |
|           | 3.4  | 3.6  | 3.9  | 4.1  | 4.5  | 5.1  | 5.5  | 5.8  | 5.8  | 5.7  |

（平成 15 年 6 月 厚生労働省老健局総務課推計）

自立度Ⅱ：日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少みられても、誰かが注意していれば自立できる。

自立度Ⅲ：日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。

## 1-3. 介護報酬「看取り介護加算」創設

1-1、1-2 で述べたように高齢者、特に認知症高齢者の増加に伴い、自宅介護や医療保険の限界など、様々な課題が出てきた。また、延命治療を望まず「静かに最後を迎えたい」という考え方も浸透してきた。

そのような中、平成 18 年 4 月に改正された介護保険法に、特養での「看取り介護」が位置づけられ、終末介護が法的に認められるようになった。

これにより、特養が「看取り」を行う場としてふさわしい環境のひとつであり、「終のすみか」と称される特養で、最後を迎えることが、今まで以上に期待されるようになってきた。

## 2. 「看取り介護」の条件

介護保険制度が平成 18 年 4 月に改正され、看取り介護についても加算されるようになり、加算に際しての「施設の条件」が示された。それは次のとおり。

1. 常勤の看護師を 1 名以上配置し、看護に係る責任者を定めていること。
2. 看護職員、もしくは、病院・診療所・訪問看護ステーションとの連携により、24 時間連携体制を確保していること。
3. 看取りに関する指針を定め、入所の際に、入所者や家族に対して、指針を説明し同意を得ること。
4. 看取りに関する職員研修を行うこと。
5. 看取りのための個室を確保すること。

# 3. 芦花ホームの取り組み

「芦花ホーム」では、平成 18 年 4 月より看取り介護加算に基づく「看取り介護」を実施してきた。その概要は、次のとおり。

## 3-1. 施設と体制の概要

### (1) 入所者

定 員： 介護老人福祉施設 100名  
          ショートステイ 20名  
平均年齢： 87.3歳  
平均介護度： 要介護4.2  
男 女 比： 男：女＝1：9

### (2) 居室とその他の機能

|    | 定 員  | 個 室 | 2人部屋 | 3人部屋 | 4人部屋 |
|----|------|-----|------|------|------|
| 4F | 20人  | 4室  | 6室   | 0室   | 1室   |
| 3F | 40人  | 17室 | 8室   | 1室   | 1室   |
| 2F | 40人  | 13室 | 10室  | 1室   | 1室   |
| 1F | 20人  | 11室 | 3室   | 1室   | 0室   |
| 計  | 120人 | 45室 | 27室  | 3室   | 3室   |

|    |                                             |
|----|---------------------------------------------|
| 4F | 会議室／屋上庭園<br>居室(ホーム)／食堂／浴室                   |
| 3F | 居室(ホーム・ショートステイ)／食堂／浴室                       |
| 2F | 医務室／歯科医務室／看護師室／静養室／家族宿泊室<br>居室(ホーム)／食堂／浴室 等 |
| 1F | 受付／事務室／地域交流室／理容室<br>居室(ホーム)／食堂／浴室 等         |
| B1 | 調理室／洗濯室／駐車場／機械室 等                           |

### (3) 職員体制

| 職種      | 配置人数 |    |     | 主な業務内容                |
|---------|------|----|-----|-----------------------|
|         | 常勤換算 | 常勤 | 非常勤 |                       |
| 施設長(所長) | 1    | 1  | 0   | 施設業務の総括               |
| 管理係長    | 1    | 1  | 0   | 施設業務の総括補佐             |
| 医師      | 1.1  | 1  | 4   | お客様の健康管理・診察および療養上の指導  |
| 生活相談員   | 3    | 3  | 0   | 生活相談・生活の企画および実施       |
| 介護職員    | 53   | 41 | 17  | 日常生活の介助・援助            |
| 看護職員    | 10   | 5  | 9   | 診療補助・看護・保健衛生管理・療養上の援助 |
| 管理栄養士   | 1    | 1  | 0   | 献立作成等食事業務全般・栄養指導      |
| 機能訓練指導員 | 2    | 2  | 0   | 機能訓練指導                |
| 介護支援専門員 | 2    | 2  | 0   | 施設サービス計画作成            |
| 歯科衛生士   | 0.5  | 0  | 1   | 口腔衛生指導                |
| 事務職員その他 | 7    | 5  | 3   | 庶務および会計事務、就労支援        |

※スタッフは、「1～2F」「3～4F」に分かれて、チームを組んでいる。

※2Fに医療室があるため、重度の入所者は基本的に2Fに配置される。そのため、1～2Fスタッフに看取りの経験者が多い。

### (4) 連絡体制

24時間、緊急時に対応できる体制を組んでいる。

1. 常勤医師：日勤帯に配置。急変時には、連絡がとれる。
2. 嘱託医師：内科、精神科、皮膚科の3名が配置。
3. 看護職員：24時間交替制で勤務。
4. 介護職員：24時間交代制で勤務。
5. 協力病院：区内の医療機関3カ所の協力病院と契約。

## 3-2. 「看取り介護」方針と流れ

### (1) 看取り介護の方針

#### ①施設としての考え方

入所者と家族が、在宅と同様に安らげる生活の場を提供し、自然な状態のままで残された余命を家族と共に過ごして頂くこと。

## ②看取りのはじまりの考え方

医師により終焉がさけられない状態と判断された場合の介護・看護を、「看取り」と考える。

## ③芦花ホームが行える医療行為

芦花ホームが行える医療行為は、入所者の健康管理と一時的な処置。本人や家族が治療を望まれる場合は、いつでも受診や入院を選択できる。

## ④医師や医療機関との連携体制

常勤医師を中心に、随時、嘱託医師や協力病院と連携している。

## ⑤本人や家族との話し合いや同意

話し合いは、入所時・希望時・状態悪化時・ケアプラン更新時などに行う。同意は、「看取り介護同意書」で行う。

## ⑥意思確認の方法

医師により終焉がさけられない状態と判断された場合、家族面談を行い、受診・入院するか、または看取り介護に移行するかの希望を確認する。

看取り介護を実施する場合は、頻回に本人や家族と話し合いを重ね、その意志を確認する。

### 【「看取り介護」の判断基準】

1. 嚥下能力や食事摂取量の低下
2. 食事形態の変更も功を奏しない
3. 痛みや苦痛がない
4. 病院での治療で効果が期待できない

## ⑦ターミナル委員会の開催

上記⑥で記載した家族の意思確認後、関係者による「ターミナル委員会」を開催する。この委員会では、スタッフ間の情報を共有し、看取り介護の目標を同じにしていく。(平成 20 年 10 月から実施)

### 【確認項目】

1. 看取り介護同意書の取り交わし時期(家族心情も十分に配慮)
2. 看取り介護計画作成のための、担当者会議の日程調整
3. 看取り介護計画の原案作成
4. 家族への確認事項の再確認

(葬祭業者の手配・旅立ちの衣装の用意)

5. 訪室頻度の確認

(職員が頻回するか 家族の時間を大切にするか)

6. 申し送りや情報収集の確認

7. モニタリングの時期の設計

**【ターミナル員会参加者】**

所長／医師／サービス係長／介護主任／看護主任／相談員／フロア主任 or 副主任／OT／管理栄養士／歯科衛生士／その他

## (2) 「看取り介護」に至る流れ

入所者の体調変化



医師およびスタッフで検討

本人もしくは家族への「意思確認」が必要と判断された場合



家族面談

「医師およびスタッフ」と「本人もしくは家族」で話し合い

→ 医療機関での治療を希望される場合は → 病院へ



施設で、自然なまま過ごすことに決めた場合



ターミナル委員会

スタッフ間で情報共有、目標を同じにする



「看取り介護同意書」を家族が記入



担当者会議の実施



定期的な評価を実施し、必要に応じて家族と連絡

## 3-3. 「看取り介護」の実績と事例紹介

### (1) 看取り介護実績

| 年度  | 退所者数 | 看取り介護によるご逝去 | ホームでご逝去 | 在籍中に病院でご逝去 | 長期入院による退所 | その他        |
|-----|------|-------------|---------|------------|-----------|------------|
| H18 | 14人  | 1人          | 4人      | 6人         | 3人        | 0人         |
| H19 | 25人  | 12人         | 4人      | 3人         | 5人        | 1人(三宅島へ帰島) |
| H20 | 23人  | 10人         | 1人      | 10人        | 2人        | 0人         |
| 計   | 62人  | 23人         | 9人      | 19人        | 10人       | 1人         |

入所者中の看取り介護者（ホームでご逝去を含む）の割合を見ると、平成 18 年度は 36%、平成 19 年度は 64%、平成 20 年度は 48%となっている。実施当初より、ホームで最後を迎える方の割合は増えてきている。

### (2) 看取りの事例紹介

#### ①家族の希望を配慮した環境づくりの例

**A さん**（享年 92 歳、女性）

- ・ 既往歴：アルツハイマー型認知症、肺腫瘍
- ・ 生活歴：華道の先生
- ・ 家族の希望：苦痛のない生活、花の手入れ、変動がなくても一日一回の連絡
- ・ ターミナルケア：花の手入れ等の居室環境整備、毎日の家族への連絡

#### ②家族と一緒に看取りをした例

**B さん**（享年 88 歳、女性）

- ・ 既往歴：脳血管性認知症、緑内障
- ・ 生活歴：専業主婦
- ・ 家族の希望：夫の思い強く、「妻には大変世話になった、最後までできるだけのことをしたい」との希望あり。
- ・ ターミナルケア：食事やタオルのかけ方など、様々な介護サービスに対して具体的な希望があり、スタッフもできる限り対応。殆ど毎日来所され、食事などの介護も自ら熱心にされた。

### ③スタッフによる看取りの環境づくりの例

#### Cさん（享年 101 歳、女性）

- ・ 既往歴：老人性痴呆症、心疾患
- ・ 生活歴：歌好き
- ・ 家族の希望：安らかな生活
- ・ ターミナルケア：好きな食べ物（プリン等）の摂取  
好きな音楽を聴く（家族にラジカセと CD を持ってきてもらう）  
息子さんも当施設に入所していたので、スタッフが息子さんの写真撮影をして、Cさんの部屋に飾った。

### ④虐待による措置入所された方の例

#### Dさん（享年 82 歳、男性）

- ・ 既往歴：老人性痴呆症（アルコール依存症あり）、悪性腫瘍
- ・ 生活歴：妻および子どもからの虐待あり
- ・ 家族の希望：世田谷区（措置元）が間に入り、家族とは基本的に面会不可だったが、看取りになって面会した。
- ・ ターミナルケア：本人に意志能力があったため、本人に看取りの確認をとった。  
亡くなる直前、「マグロの刺身が食べたい」と希望され、ケースワーカーが持参し召し上がり、その日の深夜に亡くなった。

### ⑤看取りの考え方を教わった例

#### Eさん（享年 95 歳、女性）

- ・ 既往歴：脳血管性痴呆症
- ・ 生活歴：三宅島出身。三宅島に帰る体力、三宅島での受け入れ体制について検討した結果、当施設での入所を継続することとなった。
- ・ 家族の希望：自然なかたちで安楽な生活を希望。  
三宅島には、「最後は水だけ与える（精神が落ち着き、自然に戻る）」という言い伝えがある。  
食べられない状態なのに、ムリして食事をさせることで、誤嚥それに伴う肺炎などを起こすのではないかと考えられる。

# 4. ヒアリングのまとめ

医師およびスタッフ、また入所者と入所者の家族にヒアリングを行った。そのまとめは次のとおり。

## 4-1. 医師ヒアリングのまとめ

### (1) ヒアリング対象

芦花ホーム常勤医師 石飛氏

### (2) ヒアリング内容のまとめ

#### 1) 看取りの考え方と判断

①看取りの考え方：心安らかに亡くなることを認めること

- ・「どんなことをしても長生きする」ことではない。
- ・芦花ホームでは点滴もしない。

②看取りの判断：「口から食べられない」状態

- ・「口から食べられない」状態になったら、先が長くないということ。
- ・スタッフと連携して情報を得ながら、入所者の体調を判断。

#### 2) 看取りの相談時

①基本は家族と相談

- ・入所者の9割が認知症なので、基本的に家族と相談する。
- ・本人の意識がある場合は、本人と相談することもある。

②家族と状況を共有する

- ・家族には、正直に話をする。基本は、状況を共有しようという姿勢。
- ・芦花ホームでの看取りを、説得や説教をする必要はない。

③相談するタイミングやスタッフは、ケースバイケース

- ・医者・看護師・ケアワーカーなどと家族が相談する時もある。
- ・医師一人で相談する時もある（スタッフが大勢いると話にくい場合等）。
- ・相談員は家族の状況を良く把握しているので、相談員と医師とで、タイミングや誰が話をするかなど、相談しながら進めている。

#### ④家族の反応：延命治療を望まない人が増えてきた

- ・最近、延命治療を望まない人が多くなってきている。延命治療に対して疑問を投げかける報道が多くなり、啓蒙された面はあるだろう。

#### ⑤病院に転院するケース：苦痛がある、治療が期待できる、延命希望

- ・まず第一に、本人が苦しんでいる場合。医療的な処置で苦痛が取れる場合。
- ・治療効果が期待できる、緊急的な現況が改善できる可能性がある場合。
- ・家族が、とにかく1日でも長く生きて欲しいと考えている場合。

### 3) 特養で看取りをするポイント

#### ①特養の役割＝「終のすみか」を認識することが大切

- ・特養は、病院のように治療をする場所ではなく、あくまで「住まい」であり、「終のすみか」として亡くなることを受け入れる場所である。
- ・こうした特養の役割を、はっきり認識することが大切。

#### ②夜間対応が可能な医師を配置

- ・どのような医師を配置するかも大切。開業医が何人かで分担している場合、昼間忙しくて大変な医師が、夜間に呼ばれるのは難しい。
- ・芦花ホームでは、医師の夜間対応が可能になってから看取りが開始した。
- ・特養の医師の役割には、寿命が来た人を家族と一緒にあって、自然界の摂理に向かっていくようにする、というもある。

#### ③スタッフ間で考え方を共有する

- ・スタッフ全員一丸になって考え方を共有しないと、「看取り」はできない。その上で、スタッフと家族とで共有して、一緒に取り組む姿勢が大切。
- ・芦花ホームでは、医師がスタッフ向け研修を3回行った。また、毎日顔を合わせる中で、意思疎通を図っている。
- ・亡くなった方を見送る時、担当していた多くのスタッフが泣いていた。スタッフは、想いを持って介護をしている。

#### ④設備より「気持ち」が大切

- ・例えば、賛美歌のCDを持ってきて流したり、など。

### 4) 今後の展望

#### ①特養の次の役割：もっと楽しく過ごせる場所にできないか

- ・家族にしてみれば、認知症で徘徊して大変でも、かけがいのない唯一の家族。楽しそうに生活させてあげられたら、という気持ちがある。
- ・認知症の人々が楽しく生きていけるよう、特養が果たす役割がもっとあるのではないか。認知症の人をどうケアできるか、それが次の大きな課題。

## 4-2. スタッフヒアリングのまとめ

### (1) ヒアリング対象者

関係スタッフの方々に集まっただき、一同に会した場で、看取り介護に携わってきた感想や課題を聞いた。

参加者は13名（所長：1名／サービス係長：1名／看護主任：1名／相談員：1名／1～2F主任：1名／1～2F副主任：1名／1～2F担当：2名／3～4F主任：1名／3～4F担当：3名／リハビリ担当：1名）

### (2) ヒアリングの内容

#### 1) 看取り介護の課題

##### ①日常と看取りの介護を一緒に行うのは難しい

- ・スタッフが日常業務を行いながら、看取り介護も行っている。
- ・日常生活を送っている入所者が、同じフロアで行われている看取りをどう感じているかが気になる。
- ・在宅介護の場合、看取り介護に入ると「特別なケース」として日常業務から切り替えた。特養はそれがないので、看取りに全力投球できずに悩んでいる。
- ・芦花ホームとして、1) セレモニー的に看取る 2) 日常の延長として看取る などの方針の検討が必要。

【提案】看取り介護は、特別室で、専用スタッフが実施する等はどうか。

##### ②最終ケアの希望がわからない

- ・殆どの場合、本人との意思疎通ができないので、看取りに際して「これで良かったのか」との気持ちが残る。大きな悩みのひとつ。

【提案】芦花ホーム入所時などの早い段階で、看取りの時の希望を聞くことはできないか。

##### ③看取りを決定する「しくみ」を確立したい

- ・今回のヒアリング時、看取り決定プロセスがわかる「しくみ」ができないかとの提案が出ていた。その後「ターミナル委員会」が立ち上げられ、すでに実施されている。(7頁参照)

##### ④振り返りが必要

- ・看取りの経験を、スタッフ全員で共有するしくみや機会がない。

【提案】各スタッフが蓄積した知識やノウハウをみんなで共有し、課題解決していく場が必要。看取り介護後、関係者で意見交換をする「振り返り」の機会を設けたい。

## 2) 家族のケア

### ①看取り中の家族のケアができていない

- ・入所者が看取りに入った家族は、覚悟をしているとはいえ、かけがいのない人の最後を迎えることは精神的に厳しい状態。
- ・スタッフとして、家族のケアもしたいが、時間がとれないために十分なケアができていないのが現状。

### ②グリーフケアもできていない

- ・看取り後の家族へのケアも、現在はできていない。

【提案】例えば、四十九日等に家族に手紙を出す、お盆の時期に亡くなられた方々をお迎えするようなセレモニーを行う等はどうか。

## 3) 職員のケア

### ①看取りの現場に出会う不安がある

- ・看取り介護は、事前に訓練できるものではない。いくら勉強しても看取りの現場にあったら戸惑う。

【提案】看取りの考え方や、死生観などを考える研修を行う必要がある。

### ②看取りの技術的な不安がある

- ・エンゼルケアなどがきちんとできるか不安。

【提案】研修を全員が十分に受けられるようにする。

## 4) 設備

### ①看取る部屋の検討が必要

- ・個室的になっているが、2部屋の中央がカーテンで仕切られている部屋もある。
- ・看取りの時、隣室の人はどう感じているかが気になる。
- ・徘徊してカーテンを越えて、看取りの部屋に入ってきたら困る。

【提案】「静養室」などの特別室を設けて、看取り介護を行っている例もある。その方が、入所者もスタッフも安心。

## 4-3. 入所者ヒアリングのまとめ

現在、芦花ホームに入所している方および入所者の家族に、看取りに関するヒアリングを行った。そのまとめは、次のとおり。

### (1) ヒアリング対象者

入所者 6 名、入所者の家族 3 名に、個別にヒアリングを行った。

### (2) ヒアリングのまとめ

#### 1) 他の方の看取りについて

##### ①人の出入りや施設内放送で、看取りを知る

- ・同フロアの看取りは、人の出入りが多くなること、相談ごとをしている感じから、看取りが行われていることを知っている。
- ・また、施設内放送でも亡くなった人がいることを知った人もいる。

##### ②人が亡くなるのは悲しいことだが、生活に支障はない

- ・人が亡くなるのは悲しいこと、というのは基本的にある。
- ・ヒアリングをした中で、隣室での看取りを体験された方は 1 名だったが、夜間明かりがもれたことが気になったこと以外、支障を感じていなかった。(今後、カーテンを壁に整備する予定と説明したら、隣室に来たスタッフへ声かけできないことを不安に感じられていた)。
- ・隣の隣の部屋になると、全く支障がないとの答えだった。

##### ③亡くなったことを知らせるのは、日頃から親しい方のみで良い

- ・日常からおつきあいのある方が亡くなった時、スタッフが知らせて、お見送りをした入所者もいた。
- ・日常から親しい人意外は、かえって遠慮してしまうとの意見もあった。今まで以上に積極的に知らせる必要はなさそうである。

#### 2) 自身や家族の看取りについて

##### ①最後は家に帰りたい

- ・入所者の中には、最後は家に帰りたい、数日でも良いので家に帰れたら、との希望を出された人がいた。

##### ②施設で最後を迎えたい

- ・入所者の家族からは、施設で最後を迎えたいとの希望であった。

### ③看取りの部屋

- ・「施設で最後を迎えたい」方に、看取りの部屋についておうかがしたところ、「できれば今いる部屋のままだが良い」との希望であった。

## 3) お見送りについて

### ①お見送りは関係者と静かに

- ・日常からおつきあいのある方が亡くなった時、スタッフが知らせて、お見送りをした入所者もいた。
- ・親しい人以外のお見送りのお知らせは、必要なさそうである。
- ・入所者のご家族からも、最後はお世話になったスタッフと家族で、静かに後にしたいとの希望があった。

### ②お見送りの場所

- ・現在、地下で行っているが、若干暗くて狭いとの感想があった。

【提案】2F会議室、1Fレストランを使えないか。1Fレストランは良い雰囲気。

## 4) 法要などについて

### ①法要などの希望はない

- ・「亡くなった方を、年に一度思い出すようなことをした方が良いか」をおうかがいしたところ、積極的にやった方が良いという意見はなかった。
- ・親しい人とは個人的に連絡を取り合っているので個別に行う、また、家族も高齢なので集まるのが大変などの意見があった。

## 5) 日常生活について

### ①スタッフと親しくなりたい：まずは胸の名札を大きく

- ・入居者のご家族から、家族の介護だけでなく、他の入所者の方とおしゃべりしたり、ちょっとしたお世話をしているが、どこまでやっても良いか遠慮しているとの意見があった。
- ・できれば、スタッフと親しくなり、もっと関わっていききたいとの希望がある。
- ・まずは、胸の名札を大きくしてもらい名前を覚え、コミュニケーションを図りたい。

### ②スタッフの異動を知りたい

- ・長年お世話になったスタッフに、最近会わないと思っていたら退職や異動と聞いた。そうした人事異動は、できるだけ前もって入所者の家族にも知らせてもらえると良い。

③スタッフを呼ぶのに不安がある

- ・スタッフは良くしてくれるが、忙しいので、ブザーを押しても来てくれないなど、スタッフに声をかけることに不安を感じている意見があった。

④その他

- ・葬儀屋などのお世話もして欲しい。

# 5. アンケートのまとめ

芦花ホームで看取りを経験した家族と、世田谷区内にある特養にアンケートを行いました。そのまとめは、次のとおり。

## 5-1. ご遺族アンケートのまとめ

### (1) アンケートの回答者

看取りを行ったご家族 21 名中、19 名に送付し、13 名から回答。

### (2) 各項目毎のまとめ

#### 1) 「看取り」に入る相談時の対応：【充分】

Q 1：「終焉がさげられない」「看取りが近い」と相談が最初にあった時のスタッフの対応について

- ・殆どが「充分だった」「親切でありがたかった」という回答だった。
- ・「看取り」「終焉」の説明がなく、若干不安を感じた方が 1 名いた。

#### ■回答から一部抜粋

- ・先生、介護士にまめに相談にのっていただき助かった。職員の方に感謝。
- ・医師を中心とした適切な対応に安心しました。
- ・この施設で終わらせたいとお願いしていましたので、安心致しました。
- ・率直で配慮ある相談を受けたと感じました。
- ・私にまでそっと気を遣いながら、母に対しては心配しながら、今までと同じ様に接して下さった事、嬉しかったです。
- ・親切に説明致してくれまして有り難く思いました。
- ・大変良かったです。
- ・十分な説明が有り心に決めました。
- ・非常に丁寧に説明されましたのでよく理解できました。
- ・医師に全てお任せしたいと感じた。家族の気持ちを考える姿勢がとてもありがたかった。先生の信念が伝わり、家族の死と向き合うことができた。
- ・「看取り」「終焉」などの説明はなく、どの程度状況を把握して介護対応してくれるのか、若干不安を感じた。

## 2) 「看取り」を選んだ理由：【静かに終わらせてあげたい】

### Q 2：「看取り介護」を選んだ理由

・殆どが「治療は期待できない、静かに終わらせてあげたい」という回答だった。

#### ■回答から一部抜粋

・治療は期待できなので、静かに終わらせてあげたい。  
・ムリな延命は酷と考慮した。  
・年齢や認知症などの現実をみると、本人のためには看取りが良いと判断。  
・私自身の気持ちの中に、その様な考え方も一つとしてもっていました。  
・痛みなどの苦痛を伴っていなかった。  
・芦花ホームに入った時、ここが家族の家と思っていた。人にうつさぬ病気なら、家族は穏やかに苦しまずにここでと願いました。  
・病院ではなく、最後の住み家はホームと考えていた（自宅と同じ気持ち）。  
・自分も高齢のため、自宅での看取りが不可能と判断した。  
・ホームに居る時が最も落ち着いていたため。  
・本人が生前から望んでいた。  
・信仰上の理由から、自然を望んでいた。

## 3) 「看取り」の説明等の理解：【わかりやすかった】

### Q 3：「看取り介護」に入る時の説明や資料などのわかりやすさ

・殆どが「わかりやすかった」という回答だった。  
・言葉として理解したつもりだったが全体像がわからなかった、という方も1名いた。

#### ■回答から一部抜粋

・対応が慣れていて、家族として安心した。  
・親切で温かい説明。  
・話にくいことだと思うが、心の中にずっと入る、きちんとした話でした。  
・細かい段取りを説明してもらい、よく理解できた。  
・医師と自分の考えを充分に話した。  
・分からないことはお聞きした。  
・希望は十分聞いていただいたと思います。  
・「指針」などは言葉として理解したつもりだったが、「看取りの定義」や「介護の流れ」など、全体がわからなかった。

#### 4) 「看取り介護」が始まってからの対応：【良かった】

Q 3:「看取り介護」が始まってから、部屋やスタッフの対応で良かった点、気になった点

- ・殆どが「良かった」という回答だった。
- ・気になった点として、「看取り介護にたくさんの手間をかけてしまったのではないか」といった、他の入所者への気遣いの感想があったほか、「様態を聞いた時に即答してもらえなかった」「部屋のコンセンストが不具合だった」との回答があった。

##### ■回答から一部抜粋

###### ☐良かった

###### <部屋>

- ・最後まで自室で、変わらず過ごせて良かった。
- ・いつもと同じ部屋で、気分的に変わらなかった。夜の出入りや親戚の出入りが多かったが、自由にさせていただき、感謝。
- ・クリスマスの飾りまでしていただき、家族一同びっくりした。
- ・折り鶴を並べてもらい、スタッフの心が見えたようでホッとした。
- ・十分な気遣いがされているのを感じた。

###### <スタッフ>

- ・親切で温かかった。
- ・対応の方向がはっきりしたことが、良い方向へ向かったように感じた。
- ・いつもと変わらず、元気に明るく親切にしてくれた。
- ・家族以上によくしていただき、本当にありがたかった。
- ・良くやってくれました。
- ・面会に行った時、体調などの説明をもらった。
- ・家族の気持ちを大切にしてくれた。次々と顔なじみのスタッフが訪ねてきて、つくづく家族は幸せと思った。
- ・医師・看護師には多くの時間を割いてもらい、精神的にお世話になり感謝。
- ・夜 11 時交代時間にもかかわらず、親身に身内のように対応してもらった。

###### ☐気になった

###### <部屋>

- ・コンセンストが不具合だった。

###### <スタッフ>

- ・自分の家族の看取り介護に沢山の時間をかけてしまい、他の入所者の介護が手薄にならないか気になった。
- ・様態を聞いた時、即答してもらえなかった。

## 5) 看取った時の対応：【良かった】

Q 4：看取った時、芦花ホームの対応で良かった点、気になった点

・全員が「良かった」という回答だった。

### ■回答から一部抜粋

#### ☐良かった

##### <親切にしてもらい感謝>

- ・家族的に対応していただき感謝しています。
- ・自然な感じで、本人も非常に安らかでした。
- ・お忙しいのに、良くしてもらいました。
- ・親切に対応していただきました。
- ・大変良かった。忘れられません。
- ・医師、看護、介護、職員の方々、本当にありがとうございました。亡くなった時の静けさが、天国へ昇る様に思えました。家族は、きっと芦花ホームの対応全てに感謝していると思います。
- ・電話で、亡くなった時の様子を詳しく聞くことができ、とても平和な亡くなり方と救われました。
- ・多くのスタッフに囲まれ、嬉しく思った。

##### <家族が対応すべきことを示してくれた>

- ・家族が対応すべきことを区別し、家族としての責任が感じられるようにしてくれて良かった。

#### ☐手続きなどの迅速さ

- ・迅速に連絡があったこと、諸手配がスムーズに運べたこと。
- ・納棺に対応できるように措置していただき、感激しています。

#### ☐その他

- ・遺品のステレオを活用してもらった。

## 6) 見送り方法：【良かった】

Q 5：見送りの時、良かった点、気になった点

・殆どが「多くのスタッフに見送られて良かった」という回答だった。

### ■回答から一部抜粋

#### □良かった

##### <多くの職員に見送ってもらったことに感謝>

- ・みなさんで見送り頂いてありがたく感謝の気持ちでいっぱい。
- ・引き継ぎの時間帯でしたのに、沢山の方にお見送り頂き感激致しました。
- ・多くの人に見送っていただいたこと。
- ・わざわざ職員の方が家から来て下さったり、仕事の手を止めて送って下さった事、ありがとうございました。
- ・帰宅時、スタッフ皆でお見送りして戴き、家族一同本当に恐縮しました。
- ・スタッフ全員で送ってくれた事に本当に感謝してます
- ・担当全員で見送りいただきかえって恐縮しました
- ・あたたかみが感じられました。多勢のスタッフに見送っていただき母は嬉しかったと思います

##### <家族への配慮>

- ・お布団まで用意して下さり休めた事、ありがとうございました。

##### <その他>

- ・自然な感じで、本人も非常に安らかでした。

#### □気になった

- ・他の入居されている方々への影響が気になりました。

## 5-2. 他施設アンケートのまとめ

### (1) アンケートの実施概要

実 施 日 : 平成 21 年 3 月

アンケート送付先: 世田谷区内にある特養 16 施設

回 答: 11 施設 (回答率 69%)

### (2) 各項目毎のまとめ

#### 1) 看取り介護の実績: 【11 施設中 8 施設が実績あり】

Q 1 : 看取り介護の実績の有無と実績数

|                                    |                                    |
|------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 実績あり 8 施設 | <input type="checkbox"/> 実績なし 3 施設 |
|------------------------------------|------------------------------------|



☐これまでの看取り介護実績例

5 例                      1 施設

4 例                      1 施設

3 例                      2 施設

2 例                      2 施設

1 例                      1 施設

話し合いのみ      1 施設 (合計 8 施設)

## 2) 実績ある施設での看取りの工夫：【家族の希望を聞く】

Q 2：＜実績あり＞看取りにはいる時、工夫していること

・「家族の希望を十分に聞く」「それをスタッフ間で共有する工夫」をしているという回答が多かった。

### ■回答から一部抜粋

#### ＜家族への説明、希望を聞く＞

- ・医師・家族・相談員・看護師を交えて説明の場を設け、本人・家族の終末期の希望を確認し、各職種と連携、最後までそえるよう支援。
- ・その時々を家族が受け止められる様、細かく説明。
- ・「利用者の生活についてのお伺い」という文書にて、入所日に家族に説明。以降、本人・家族に、生活上の希望や食事が摂れなくなった時の対応方法、延命処置や葬儀に関することなど、意向を確認。
- ・「終末のしおり（看取りを行うかの有無）」、家族の希望にそって過ごしてもらっている。
- ・医師とのカンファレンス前より状況について常に家族へ連絡、相談等を行っている。家族の不安等を聞き対応する事で、看取りを自然な形で受け入れて頂く事ができる。
- ・ターミナル期には、状態の変化に伴いカンファレンスを開催。

#### ＜家族の希望を、スタッフで合意＞

- ・医師が病状を説明後、施設と家族とで数回話し合い、対応内容を文章化。それを家族に渡して合意し、職員の不安解消のために同じ文章を職員にも提示。
- ・ケアプラン提示の際、家族やスタッフそれぞれの役割を明確にし、スタートしたいと考えている。説明等を丁寧に行っている。

### 3) 看取り介護時の工夫：【環境整備、家族との連絡】

Q 3：＜実績あり＞看取り介護時、工夫していること

・「家庭的な居室環境づくり」や、「家族への日々および緊急時の連絡の充実」などの回答があった。

#### ■回答から一部抜粋

##### ＜居室の整備＞

- ・安心して過していただける居住環境づくり（個室確保の方法を含む）。
- ・家族来訪頻度が増えるため、居室環境を家庭的にする。

##### ＜家族への報告＞

- ・家族に日々の事をメールで知らせることで、安心していただいている。

##### ＜緊急連絡方法＞

- ・急変時の連絡方法を文章化し、医師に連絡がとれない万一の時を考え、情報提供書を個人カルテに入れている。上司を含め共通認識のもと行う。

### 4) お見送り時の工夫：【お化粧、好きだった物を飾る】

Q 4：＜実績あり＞お見送り時、工夫していること

・「スタッフがお化粧を施し、入所者の好きだった物を飾る」という回答があった。

## 5) 看取り後の工夫：【家族・スタッフのケア】

Q 5：＜実績あり＞看取り介護後、工夫していること

・「家族に励ましの手紙を送る」「スタッフへの死生観教育を行う」などの回答があった。

### ■回答から一部抜粋

#### □グリーフケア等の家族ケアの工夫

##### ＜励ましの手紙を送付＞

・看取り後、相談員と担当スタッフからご家族に励ましのお手紙を送る。

##### ＜検討中＞

・看取り介護に関するガイドラインを作成中。その中で、家族へのグリーフケアなど盛り込んでいる。

#### □スタッフケアの工夫

##### ＜職員研修＞

・年に1回は全職員を対象に研修を事例などを通して行っている。

・同じ法人内の看護部長に今までのターミナルケアと異なる「看取り介護」の内容を、全職員の研修として行った。

・年に1度、必ずターミナルケア研修を行い、職員に対する死生観教育を行っています。

##### ＜検討中＞

・看取り介護に関するガイドラインを作成中。その中で、職員のメンタルケアも目的とする振り返りミーティングなど盛り込んでいる。

・新人職員等の精神的ケアとふりかえりながら行えるよう実践中である。しかしまだ課題があり検討中となっている。

## 6) 今後の予定：【スタッフ体制の強化、家族への再調査】

Q 6：＜実績あり＞看取りに関して、今後予定していること

・「スタッフ体制の強化」や、「家族へ看取りの希望を再調査する」などの回答があった。

### ■回答から一部抜粋

・平成21年度よりターミナルケア検討委員会発足

・今までネックになっていたのは相談員でしたが、メンバーを入れ替え、3月からはスタッフ間の連携が図れるようになっていきます。

・ご家族に一般論での急変時の要望は聞き取りをしているものの、リアルな想定をしておられない方が多いので、再調査を行う。

## 7) 看取り介護の取り組み希望：【医療体制の確保次第】

Q 7：＜実績なし＞今後、看取り介護に取り組む予定はあるか

・看取り介護に取り組みたいが、「医療体制が確保できないので取り組みめない」という回答が多かった。

### ■回答から一部抜粋

- ・医師や看護師の部分でなかなか施設優先と考えた体制の整備が難しい。介護職員の技術や知識のレベルがばらばらである点でも、「看取り」に関する考え方を統一させる事の難しさと職員定着率の低下でも取り組み以前の難しさがあり、ふみこめない点でもあります。
- ・高齢であり、積極的な医療を求めない利用者及びご家族の要望が多い中で、ニーズは年々高まっておりますが、人員及び医療体制面での確保に難しさを感じております。
- ・看護師の確保ができない
- ・嘱託医の理解を得られない（夜間ほとんど連絡がとれない）
- ・配置医が開業医のため、電話相談可能な時間が9：00～24：00となっていてしまっている。
- ・看護師のオンコール体制が整っていない。

# 6. 今後について

これまでの調査を踏まえて、芦花ホームにおける看取り介護の成果と課題を整理した。それは、次のとおり。

## 6-1. 成果

### 1) 「看取り」の考え方が共有されつつある

- ・スタッフ間の日頃のコミュニケーションやスタッフ研修などで、次第に「特養の役割」「看取りの考え方」が共有されつつある。
- ・スタッフ間でより共有していく仕組みとして、平成 20 年度に「ターミナル委員会」が立ち上げられた。
- ・ご遺族アンケートからも、「看取り」について共有し、施設を信頼して最後を迎えた様子がわかる。家族が「看取り」を納得して取り組むには、医師が果たす役割が大きい。

### 2) ご遺族から、感謝の声が多く届いた

- ・ご遺族アンケートを見ると、医師をはじめ関係スタッフへの感謝の気持ちが多く届いた。「夜間にもかかわらず、身内のように親身に対応してもらった」「お見送りの時に、かけつけてもらった」など、様々な場面での親身な対応に感謝している。
- ・これらの感謝は、今までの取り組みが評価された結果である。

## 6-2. 課題

### 1) 「看取り」に対する不安がある → 振り返りが必要

- ・ご遺族からは感謝の気持ちが届いたが、一方、スタッフからは看取りに対する不安の声が多く出た。看取りの現場に出会った時に対応できるか、技術的精神的な不安があるとの意見が多く出た。
- ・看取りが行われた後、個別のケースを振り返りスタッフで共有していく、「振り返りの機会」が強く望まれている。

### 2) 看取りを特別にするか → 入居者は日常の延長を希望

- ・スタッフから、看取りが始まると、看取りの方に重きがいったしまうため、日常介護の方が手薄になってしまう、同フロアの入居者はどう感じているか、などの意見が多く出た。
- ・一方、入居者ヒアリングからは、同フロアや隣室で看取りが行われることに、支障を感じていた人はいなかった。

- ・また、入居者家族ヒアリングからは「できるだけ部屋を移さず、日常の延長として看取りたい」と望まれていることがわかった。
- ・入居者は、看取りに入っても日常と変わらず過ごせるようにしたまま、「看取り専門スタッフ」などを配置し、スタッフの負担を減らすことはできないかなどの検討が必要。

### 3) 最終希望がわからない →入居時に聞くことも検討

- ・スタッフから、看取りに際して「これで良かったらどうか」との気持ちが残るとの意見も出た。
- ・認知症の方が多いということもあり、看取りに際して何をしてあげれば良かったか確認でない場合も多い。そこで、施設に入居する時期から希望を聞いておくなどできないか、検討が必要。

### 4) お見送りの時の場所 →1F レストランなど

- ・ご遺族アンケートからは、お見送りの際、多くのスタッフに見送られたことを感謝する声が多かった。
- ・入居者家族ヒアリングからは、現状のまま、セレモニー的にせず、スタッフに見送られながら静かに後にしたいとの希望がある。
- ・一点、地下の会場が狭いので、1F レストランなどで行ってはどうかとの提案も出された。

### 5) グリーフケア →お手紙を送付など

- ・スタッフから、遺族のグリーフケアなどをしたいとの意見が出た。
- ・他施設では、遺族に手紙を送っているところもあるので検討課題。

### 6) 看取りを実施するポイント →医療体制の確保が必須

- ・他施設アンケートから、看取りを実施できていない理由として「医療の確保ができていない（特に夜間対応）」との意見が多かった。
- ・また、ご遺族アンケートから、医師の死生観に共感して看取りを行ったなど、精神的にも、医師の果たす役割は大きい。
- ・現在、芦花ホームは医師の確保ができていますが、看取り介護を実施するには、医療体制の確保が必須である。

### 7) 特養の次の役割 →もっと楽しく過ごせる場所に

- ・入居者は認知症の人が多い。認知症の人が、もっと楽しく過ごせる場所になる検討が、特養の次の大きな課題のひとつである。



## 参考資料

# 1. 入居者ヒアリング

## 【Mさん】

### □食事が同テーブルの方の看取りを体験

- ・昨年亡くなられたAさんと食事のテーブルが一緒。Aさんの家族が来られて休憩場所でお菓子を食べる時、呼ばれて一緒にいただいたりする仲。
- ・Aさんが「家へ帰りたい、いつ帰れるのか」とよく話していたので、「家に帰ると戻ってこれなくなる、一緒にここにしよう」と言っていた。
- ・Aさんが亡くなったことは、スタッフから聞いた。「あの世で旦那様と一緒になれて良かったね、今度は旦那様の手を離しちゃだめよ」と思った。
- ・Aさんが亡くなった後、Aさんの部屋に行きお祈りし、その後、スタッフと一緒にお見送りをした。家に帰れて、安心しただろうなと思った。
- ・私はAさんのすぐ隣の部屋ではないので、看取りの時にも、変わりなく過ごした。隣室の人は、ちょっとは騒がしく感じていたかも知れない。

### □自身の看取りについて

- ・主人も息子も医者。最後は、医者である息子のところに行きたい。

### □法要

- ・やってもやらなくても、どちらでも自由で良いと思う。

### □日常生活について

- ・スタッフが忙しくて、ブザーを鳴らしても来てくれないことがある。でも、忙しいから仕方がない。
- ・自分は、できるだけ人に迷惑かけないように過ごしたいと思っている。

## 【Fさん】

### □隣室の方の看取りを体験

- ・年亡くなられたAさんの、カーテン越しの隣部屋。食事も一緒のテーブル。
- ・Aさんが看取りの時、医師やスタッフ、家族の出入りがあり、日常とは違うのはすぐわかった。気が気じゃなかった。しかし、その時だけのことで支障は感じなかったが、夜間も明かりがもれていた。(→板塀に改修予定)
- ・看取り時、スタッフは、本当によくやっていると思う。

### □日常生活について

- ・日常生活も、スタッフのみなさんは良くしてくれている。
- ・隣室に来たスタッフに声をかけていたが、板塀になると声が届かなくなるのではないかと不安。ブザーの調子が悪く、押しても来てくれない。ブザーだけだととても不安。声が聞こえるようにして欲しい。

### □法要

- ・年に一度思い出すようなことは、やっていいかも知れない。

## 【K さん】

### □自身の看取りについて

- ・特養はここで9カ所目。
- ・最後は家に帰りたい。1週間、ほんの3日でも良い。家に帰って、息子に看取られたい。しかし、息子が病気なので、ムリかも知れない。

### □日常生活について

- ・今一番、気になっていることは、息子の病気。

## 【N さん・A さん・F さん】

### □同フロアの方の看取りを体験

- ・談話室に大勢の人が来て、「飛行機に乗せるかどうか」などと話していて、いつもと違うことが起きているとすぐわかった。
- ・芦花ホームで人が亡くなっても、だれが亡くなったかわからない。秘密のようになっている。施設内放送で「スタッフはお見送りを」と放送がかかるので、亡くなったことを知っている。

### □亡くなったことを伝えた方が良いか

- ・どのような範囲で知らせていくか、難しい。
- ・人が亡くなるのは悲しいこと。

### □お見送りへの参加

- お見送りに参加したいか。
- ・車いすの人や、ベッドに寝ている人もいるので、健康な人がいけば良い。私たちは遠くで見送るしかない。

### □お香典

- ・お香典を出すと、お返しも大変。お返しなど大げさになるようなことはせず、静かに終わりにしたいということを聞いたことがある。

## 【K さんのご家族】

### □同フロアの方の看取りを体験

- ・同じフロアで、看取られた人を何人か見ている。食べられなくなっていくと、亡くなるようだ。
- ・亡くなる一週間前や前日など直前に来る家族もいて、そんなに出入りは多くなく、バタバタすることもない。迷惑に感じたことなど、全くない。

### □家族の看取りについて

- ・家族が亡くなる時は、芦花ホームで看取ってもらいたい。
- ・病院が嫌いで、入院すると騒いでしまうし、入院すると体のレベルも下がってしまう。入院は、できるだけさせたくない。

### □看取りの時の部屋

- ・看取りに入る時、特別な部屋に移るのではなく、できれば今いる部屋の

ままで看取りたい。

#### □お見送りの場所

- ・最後のお見送りで、地下から出て行くのを見たことがある。棺に入れていたようだが、密葬もしているのかと思った。
- ・華道クラブ活動の時に亡くなった方がいて、お花を分けたことがある。
- ・地下は狭くて暗いので、可能なら場所を変えられると良い。1F 正面玄関はデイサービスの人たちがいるので、無理。2F 会議室、雰囲気の良い1F レストランが良いのでは。

#### □法要

- ・芦花ホーム内でも、フロアが違っていると、知っている人は殆どいない。知らない人のお見送りや法要などはあまりしなくても良いと思う。同じフロアで親しい人とは、時々交流しているので、個人的に行うだろう。
- ・介護者も高齢だから、一周忌などに芦花ホームまで出てくるのは大変。

### 【H さんのご家族】

#### □同フロアの方の看取りを体験

- ・家族がよく来ていたので、どうしたのかしらと思っていたら、あっという間に亡くなってしまった。
- ・状態が悪くなっても持ちなおす人、食堂で食事をしていた人が急に亡くなるなど、元気がない順番に亡くなる訳じゃないと知った。

#### □看取りの部屋

- ・看取りの時は、特別な部屋に移るのではなく、今いる部屋のまま看取りができた方が良い。

#### □お見送り

- ・お見送りは見たことがない。1F はデイホームの人がいるので、今のまま地下で行うのが良いのでは。
- ・よほど親しい方でない限り、お見送りなどに出るのは遠慮してしまう。

#### □法要

- ・あまり信心深くないので、法要なども大勢でやることは考えていない。

#### □日常について

- ・スタッフは、優しい人が多い。
- ・スタッフの異動などは、事前に教えてもらいたい。
- ・亡くなった時、葬儀屋などはお世話して欲しい。

### 【O さんのご家族】

#### □看取りについて

- ・隣室の方が看取りになると、家族が多少不安になるかも知れないが、あまり影響ないように思う。

#### □家族の看取りについて

- ・病院に行くと、白衣や消毒薬の臭いに、大変ナーバスになる。芦花ホームでは、スタッフがボロシャツを着ていることもあり、落ち着いてる。
- ・今後は検査入院もせず、静かに自然に、このまま過ごしてもらいたい。
- ・芦花ホームに慣れてきているが、帰宅願望はまだ強い。

#### □看取りの部屋

- ・看取りの時は、隣室の方の承諾が得られれば、今いる部屋で変わらない環境の方が良い。そういった変化に敏感。
- ・奥の部屋なので、手前の方に迷惑をかけないように、奥と手前を変更するなど、隣室の方と相談できると良い。

#### □お見送り

- ・静かに家に帰りたい。お世話になったスタッフに見送られて後にしたい。

#### □家族の役割

- ・スタッフは本当に大変。入居者の家族が、なるべくスタッフをヘルプしないといけないと感じている。
- ・自分の家族だけでなく、他の入居者さんとも話をしたり、一緒に歌ったりしている。あまり話をしない人も、故郷の話や歌は喜ぶ。
- ・家で24時間介護していたことを思えば、ここは2～3時間のこと。本当にありがたい。
- ・ヘルプする家族がもっと増えたら良いなと思っている。ただし、家族もどこまで踏み込んで良いか、遠慮している。
- ・スタッフともっとコミュニケーションを重ねて、良い施設にしていきたい。
- ・家族が看取りになり芦花ホームを去っても、自分はボランティアとして活動を続けたい。せっかく親しくなった人もいるし、スタッフへの恩返しという気持ちもある。

#### □その他

- ・スタッフの名前を覚えたいので、もっと大きい名札を胸につけて欲しい。

## 2. ご遺族アンケート

| 問1<br>相談時スタッフ対応                                         | 問2<br>看取選択理由                                                                                                               | 問3 :「看取りに入ったとき」                               |                          |                        | 問4 :介護が始まってから                                                                                          |                                                                              | 問5                                                                                       |
|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|--------------------------|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                         |                                                                                                                            | (1)説明のわかりやすさ(理由)                              | (2)指針のわかりやすさ(理由)         | (3)スタッフへの希望伝達(理由)      | (1)部屋(良かった点/気になった点)                                                                                    | (2)スタッフ対応(良かった点/気になった点)                                                      | 看取った時のホーム対応(良かった点/気になった点)                                                                |
| 1 先生、介護士にまめに相談にのっていただき助かった。職員の方に感謝しています。                | 病院で最後を迎えず、最後の住み家はホームと考えていたため(自宅を同じ気持ちです)                                                                                   | はい(良く理解できた)                                   | はい(良く理解できた。アドバイスが的確であった) | はい(対応が慣れている、家族として安心した) | 良かった(対応が良くて問題なかった)                                                                                     | 良かった(職員の方が慣れている対応が良かった。病院とは違う家族的な中で看取りができた)                                  | 良かった(看護師、介護士の方々が家族的に対応していただき感謝しています)                                                     |
| 2 医師を中心とした適切な対応に安心しました。                                 | ホームに居る時が最も落ち着いていたため。                                                                                                       | はい(本人の状態について医師から随時丁寧な説明をいただきました)              | はい                       | はい                     | 良かった(私どもが用意する花の他にスタッフの方々からも花が差し入れられ花の絶えない清潔な部屋でした。また、他のフロアからも多くの職員の方が気にかけてくださり、大変嬉しく思いました。ありがとうございました) | 気になった(他に入居されている方々に対して介護のリズムを乱さなかったという点が気がかりでした)                              | 良かった(自然な感じで、本人も非常に安らかでした)                                                                |
| 3 私の方から、この施設で終わらせたいとお願いしていましたので、安心致しました。                | 長い期間患ってましたので、治療は必要なく、静かに終らせてあげたかった。                                                                                        | はい(親切で温かかったです)                                | はい(親切で温かかったです)           | はい(親切で温かかったです)         | はい(親切で温かかったです)                                                                                         | はい(親切で温かかったです)                                                               | 良かった(お忙しいのに良くして戴きました)                                                                    |
| 4 率直で配慮ある相談を受けたと感じました。                                  | 本人の日常の現実をみると看取り介護が本人のためと判断しお願いしました。                                                                                        | はい                                            | はい                       | はい                     | 特に変化はなかった                                                                                              | 良かった(対応の方向がはっきりしたことが良い方向へ向ったように感じた)                                          | 良かった(迅速に連絡があったこと。諸手配はスムーズに運べた事。事後の段取りの説明が充分にあったこと。遺品を活用していただいたこと(ステレオ等))                 |
| 5 私にまでそっと気を遣いながら、母に対しては心配しながら、今までと同じ様に接して下さった事、嬉しかったです。 | 母が実家で暮らせなくなり、芦花に入れていただいた時、私はここが母の家と思ったこと。入所後、風邪をひき2階の部屋に移動した時、スタッフの方が次々と部屋に来て声をかけてくださいました。人にうつさぬ病気なら母は穏やかに苦しまずにここでお願いしました。 | はい(話にくい事だと思いましたが、私の心の中にずっと入っていくきちんとしたお話でしたので) | はい(分からないことはお聞きしました)      | はい(いつもの様に)             | 良かった(なによりも、最後まで自室でそれまでの様に過ごさせていただけました事は母にも私にもとても良かった事です)                                               | 良かった(いつもと変わらず元気に明るく親切にしてくださった事)<br><br>気になった(看取り介護のため、母一人のために沢山の時間をかけてしまった事) | 良かった(先生、看護、介護、職員の方々本当にありがとうございました。母が亡くなった時の静けさが天国へ昇る様子のように思えました。母はホームの対応全てに感謝していると思ってます) |

| 問6                                                                                                 | 問7                                                                                         |                                                     |                                                                                                                                                                                        | 問8                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| (1)見送り方法(良かった点/気になった点)                                                                             | 想い描いた看取りか(理由)                                                                              | (1)考えていたこと                                          | (2)良かった点                                                                                                                                                                               | 看取り改善点等                                                   |
| 良かった<br>(みなさんで見送り頂いてありがたく感謝の気持ちでいっぱい)                                                              | できた<br>(自宅で看取ったように、心温まる看取りができたこと)                                                          | 心温まる看取り                                             | 職員の方々が心温かく、看取りをさせて頂いたこと、感謝致します。                                                                                                                                                        |                                                           |
| 良かった<br>(自然な感じで、本人も非常に安らかでした)<br><br>気になった<br>(他の入居されている方々への影響が気になりました)                            | できた<br>(好きな花を飾り賛美歌を聴いてもらいました)                                                              | 苦しみ痛みもなく大変安らかでした。医師を中心としたスタッフの方々のおかげです。ありがとうございました。 |                                                                                                                                                                                        |                                                           |
| 良かった<br>(引き継ぎの時間帯でしたのに沢山の方にお見送り頂き感激致しました)                                                          | できた                                                                                        |                                                     | 病人(家の場合)を移動させるのは可哀想な状態でしたので、お部屋で終わる事を望んでました。                                                                                                                                           | 施設に入ってから、家族は感謝の気持ちで安心してお願いしていました。幸せな最後を迎えられました事、御礼申し上げます。 |
| 良かった<br>(多くの人に見送っていただいたこと)                                                                         | できた<br>(医師・介護者の方とコミュニケーションがとれたため)                                                          | 残された時間を苦痛を少し穏やかなものにしてあげたいと考えていました。                  | 本人の精神的身体的負担を軽減できた点                                                                                                                                                                     |                                                           |
| 良かった<br>(亡くなった晩、お布団まで用意して下さい休めた事ありがとうございました。あの晩からわざわざ職員の方が家から来て下さったり、仕事の手を止めて送って下さった事、ありがとうございました) | できた<br>(先生より、母の状態のお話を何度も伺っていたので、途中で元気になった一週間位の間に父母の兄弟が会いにくる事も出来、最後は兄弟5人中4人が母の死を看取る事が出来ました) | 長期に苦しまず穏やかにと                                        | 私が途中で悩んだ時、先生が助言して下さい、いっぺんに気が楽になった事。母が認知症になってから、母はとても辛い思いをする事が多かったと思います。芦花に入れていただいてから母は幸せな顔になりました。人間らしくふわっと天国へと行けたと私は思ってるのですが、ホームにとっては色々大変な事だったと。私も最後まで看取れて本当に良かったと思っております。ありがとうございました。 |                                                           |

| 問1                        | 問2                               | 問3 :「看取りに入ったとき」                         |                      |                       | 問4 :介護が始まってから                         |                                  | 問5                                            |
|---------------------------|----------------------------------|-----------------------------------------|----------------------|-----------------------|---------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------------------|
| 相談時スタッフ対応                 | 看取選択理由                           | (1)説明のわかりやすさ<br>(理由)                    | (2)指針のわかりやすさ<br>(理由) | (3)スタッフへの希望伝達<br>(理由) | (1)部屋(良かった点/気になった点)                   | (2)スタッフ対応(良かった点/気になった点)          | 看取った時のホーム対応(良かった点/気になった点)                     |
| 6 親切に説明致してくれまして有り難く思いました。 | 本人が生前(認知症になります以前)から尊厳死を望んでおりました為 | はい<br>(細かい段取りを面談で説明致してくれましたのでよく理解致しました) | はい                   | はい                    | 良かった<br>(クリスマスの飾りまでして戴き家族一同びっくり致しました) | 良かった<br>(家族以上によくして戴き本当に有り難かったです) | 良かった<br>(大変良かったです。忘れられません)                    |
| 7 大変良かったです。               | 自分自身も高齢であるため、自宅での看取りが不可能と思われたため  | はい                                      | はい                   | はい                    | 良かった<br>(明るかった)                       | 良かった<br>(良くやってくれました)             | 良かった<br>(親切に対応していただきました)                      |
| 8 十分でした。                  | 本人の年齢、認知症の状態を考慮して                | はい                                      | はい                   | はい                    | 良かった                                  | 良かった                             | 良かった                                          |
| 9 十分な説明が有り心に決めました。        | 私自身の気持ちの中にその様な考え方の一つとしてもっていました。  | はい<br>(医師と私自身の考えと十分に話しました)              | はい                   | はい<br>(内容が十分出来ました)    | 良かった<br>(利用者に対し十分気付けいがされているのが感じられた)   | 良かった<br>(面会に行った時その時の体調などの説明があった) | 良かった<br>(家族が対応すべき事柄をきちんと区別され、家族としての責任感が感じられた) |

| 問6                                               | 問7                                                    |                                                                                  |                   | 問8                                                                                       |
|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)見送り方法(良かった点/気になった点)                           | 想い描いた看取りか(理由)                                         | (1)考えていたこと                                                                       | (2)良かった点          | 看取り改善点等                                                                                  |
| 良かった<br>(家に帰ります時ホームの方皆でお見送りして戴き家族一同本当に恐縮致しました)   | できた<br>(幸せな死に方が出来、母も感謝致していると思います)                     | 最高でしたので何も申し上げる事がありません                                                            | 全てでございます          |                                                                                          |
| 良かった<br>(スタッフ全員で送ってくれた事に本当に感謝してます)               | できた                                                   |                                                                                  |                   | アンケート回答にはありませんが、本当にスタッフの方々は良くやってくださり感謝しています。自宅ではとうてい看きれない年月を親身に看ていただきました。本当にありがとうございました。 |
| 良かった<br>(担当全員で見送りいただきかえって恐縮しました)                 | できた                                                   |                                                                                  |                   | これまでされてこられた方法で良いのではと思います。                                                                |
| 良かった<br>(子供が対応しましたがホームの多くの人達が見送りして頂き感動したと聞いています) | できた<br>(私自身が遠方において十分な対応が出来なかったので医師の話や対応で十分出来たと考えています) | 昔の人から聞いていましたが、死が近づくとなんか死を向えるーこれが自然であると感じていました。現在はそれに薬で痛みを和らげることをすればそれで良いと思っています。 | 十分なされていた様に感じています。 | 看取り介護についてはそれぞれ家族の考え方があるので、出来る事、出来ない事を理解し合って誤解のない様にするのが大切であると感じます。私の場合は十分されていました。         |

|    | 問1                                                                                                              | 問2                                                                            | 問3 :「看取りに入ったとき」             |                                                          |                                                    | 問4 :介護が始まってから                                                                 |                                                                                                             | 問5                                                                          |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
|    | 相談時スタッフ対応                                                                                                       | 看取選択理由                                                                        | (1)説明のわかりやすさ<br>(理由)        | (2)指針のわかりやすさ<br>(理由)                                     | (3)スタッフへの希望伝達<br>(理由)                              | (1)部屋(良かった点/気になった点)                                                           | (2)スタッフ対応(良かった点/気になった点)                                                                                     | 看取った時のホーム対応(良かった点/気になった点)                                                   |
| 10 | 先生から電話をいただいた時、すべてお任せしたいと感じました。家族の気持ちを大切に考える姿勢がとても有難かったです。自然がご本人にとって良いという先生の信念が伝わってきて、母の死と向き合う事ができました。           | 信仰上の理由から、自然を望んでおりましたので                                                        | はい<br>(直接先生から電話をいただいた)      | はい<br>(施設職員の丁寧な説明がありました)                                 | はい<br>(介護士さんから「何かご希望はありますか」と聞かれたので十分聞いていただいたと思います) | 良かった<br>(いつもと同じ居室でしたので気分的に変わらなかった。夜の出入りや親戚の出入りが多くなってしまうが自由になさせていただけて感謝しております) | 良かった<br>(家族の気持ちを大切に下さった。次々とお顔なじみのスタッフが訪ねて下さってつくづく母は幸せと思いました)                                                | 良かった<br>(看護師さんから電話をいただき、ホームで亡くなった時の様子を詳しく伺うことができました。とても平和な亡くなり方だと聞き、救われました) |
| 11 |                                                                                                                 |                                                                               |                             |                                                          |                                                    |                                                                               |                                                                                                             |                                                                             |
| 12 | ・サービススタッフから葬儀社の資料を受け取った<br>・介護スタッフが搬送用着衣の準備を始めた<br>*上記では「看取り」「終焉」などの説明・確認などはなく、どの程度状況を把握して介護対応をしているのか、若干不安を感じた。 | ・重度の認知症症状で回復が期待できなかった。<br>・年齢は93歳を過ぎていてこのまま逝っても天命だと思えた。<br>・痛みなどの苦痛を伴っていなかった。 | はい                          | はい<br>(コトバとしては理解したつもりだったが「看取り」の定義や介護の流れなど全体的な流れがわからなかった) | 「看取り」は初めての経験だったので、その時必要なか分からなかった)                  | 良かった<br>(折鶴を並べてくれたことスタッフの心が見えてホッとした)<br><br>気になった<br>(不具合なコンセント)              | 良かった<br>(特にDr.看護師には、多くの時間を割いてくれて精神的にもたいへんお世話になった。感謝しています)<br>-----<br>気になった<br>(様態を聞いた時答えられなかった介護スタッフがいたこと) | 良かった<br>(多くのスタッフに囲まれて嬉しく思った)                                                |
| 13 | 非常に丁寧に説明されましたのでよく理解できました。                                                                                       | かなり高齢なものと外科的手術を再度経験したので余りムリな延命措置は酷と考慮した。                                      | はい<br>(相当の苦痛を伴う措置は回避するのが懸命) | はい                                                       | はい                                                 | 良かった<br>(交替で時間夜11:00頃にも拘らず親身になって対応して頂いた)                                      | 良かった<br>(身内の者と同様の対応でした)                                                                                     | 良かった<br>(納棺に対応できるような措置して頂いたので感激しております)                                      |

| 問6<br>(1)見送り方法(良かった点/気になった点)                                                       | 問7<br>想い描いた看取りか(理由)           | (1)考えていたこと                                         | (2)良かった点                                                                                                                                                   | 問8<br>看取り改善点等                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 良かった<br>(あたたかみを感じられました。多勢のスタッフに見送っていただき母は嬉しかったと思います)                               | できた<br>(想い描いていた以上のすばらしい体験でした) | 正直、病院で迎える事しか知らなかったですし、急なことでありあまり考えていませんでした。        | 亡くなった後、希望やこちらの都合を受け入れて下さったことが看取りと病院の違うところのように感じました。すぐ霊安室かと思っていましたら、そのままお部屋で母と川の字になって朝まで一緒に寝たり、葬儀屋さんの都合で半日お部屋で過ごさせていただいたことは、お通夜、葬儀と慌ただしくなる家族にとっては有り難いことでした。 | ・葬儀社の対応が最小限だったので気持ちの上で大変助かりました。<br>・先生のお心のこもった対応が最高でした。<br>・看取り自体が希望通りでしかも予想以上のものでした。<br>・気になる点があれば書いてさしあげたいところですが、本当にありません。芦花ホームの対応は日頃から大変満足しておりました。葬儀の時も良い最期を迎えられてよかったと親戚の者も感謝しておりました。芦花ホームでの生活全般を見て、娘も福祉の方で相談員になり一生懸命働いております。皆様のお心のこもった介護に対する姿勢は素晴らしいと思います。心から感謝申し上げます。 |
|                                                                                    |                               |                                                    |                                                                                                                                                            | 生前父が大変お世話になりました。看取り介護を希望しておりましたが、先生のアドバイスと家族の話し合いで病院での治療に希望をつなぎました。治療の甲斐なく亡くなりましたが、ホームでの介護、度重なる深夜の吸引、体位交換に感謝しております。                                                                                                                                                        |
| 良かった<br>(多くのスタッフに送られて嬉しく思った)<br><br>気になった<br>(逝ってから搬送までの時間が短く慌ただしかった。搬送場所が狭くて暗かった) | できた<br>(想い描くほどでなかった)          | 逝った後霊安室に移されるのかと思っていた。                              |                                                                                                                                                            | ・説明が断続的・個別的になりやすい。→時間をきちととって、会議室で説明してほしい。<br>・看取り介護の経過の中で「主たる世話役」がいつも側にいると、家族としては安心できる。                                                                                                                                                                                    |
| 良かった<br>(ホーム全員の方のお見送りに感激した)                                                        | できた<br>(最後まで特に苦痛を伴わず過させて頂いた)  | 看取り介護は過度な治療をせずに安楽死に近い方法が良いと思います。家族の想いが通じれば幸いと考えます。 |                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                            |

### 3. 他施設アンケート

【看取り介護に取り組んでいると回答した8施設】

| 看取り介護の実績                                      | 看取り介護の今の取り組み<br>(具体的内容)                                                                                                                             | 今後の取り組み予定                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 3例<br>※看取り介護の加算は適用せずに実施しているが、新年度は体制を整えて対応予定 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■看取りに入る時、ご本人やご家族に説明する時の工夫</li> <li>■お見送りの時の工夫</li> <li>■看取り介護後のグリーフケア等、家族への対応の工夫</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族来訪頻度が増えるため居室環境を家庭的にする。</li> <li>・お見送り時はスタッフがお化粧を施し、入所者の好きだった物を飾る。</li> <li>・看取り後、相談員と担当スタッフからご家族に励ましのお手紙を送る。</li> </ul>                                                                                                                           |
| 2 3例                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■看取りに入る時、ご本人やご家族に説明する時の工夫</li> <li>■研修会やふりかえりの時間を設ける等、スタッフケアの工夫</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・配置医、家族、相談員、看護を交えて説明の場を設けて、本人や家族の意向で、どのような終末期を希望されるのかを確認し、各職種と連携し、最後までそえるよう支援している。</li> <li>・終末期、その時、その時の状態をどういう時期なのか、細かく家族が受け止められる様に、説明を行っている。</li> <li>・年に1回は全職員を対象に研修を事例などを通して行っている。</li> </ul>                                                    |
| 3 5例                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■看取りに入る時、ご本人やご家族に説明する時の工夫</li> <li>■研修会やふりかえりの時間を設ける等、スタッフケアの工夫</li> <li>■お見送りの時の工夫</li> <li>■その他</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「利用者の生活についてのお伺い」という文書にて、入所日に家族に説明。以降、本人・家族に対して、ホームでの生活についての希望や食事が摂れなくなった時の対応方法、延命処置や葬儀に関する事など、意向確認をしている。</li> <li>・看取り介護に関するガイドラインを作成中。その中で、職員のメンタルケアも目的とする振り返りミーティングや、ご家族へのグリーフケアなどについて盛り込んでいる。</li> <li>・安心して過していただける居住環境作り(個室確保の方法を含む)</li> </ul> |
| 4 まだ実績なし<br>(入所者やご家族との話し合いの実績はあり)             | <ul style="list-style-type: none"> <li>■研修会やふりかえりの時間を設ける等、スタッフケアの工夫</li> </ul>                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ法人内の看護部長に今までのターミナルケアと異なる「看取り介護」の内容を、全職員の研修として行った。</li> </ul>                                                                                                                                                                                       |
| 5 2例<br>※取り組みは正式には4月を予定                       |                                                                                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に工夫はしていませんが、心掛けていたことは、ドクターから病状説明をしていただき、その後施設側、家族と話し合いの場を数回行い対応を文書化して家族にも渡し合意(施設でできる範囲を含め)のもと行い、職員不安解消のためにも同じ文書を提示し介護を行ってもらうことと、急変時の連絡方法を文書化、ドクター連絡とれない時のために万一の時を考え、情報提供書を個人カルテに入れています。上司を含め共通認識のもと行う。</li> </ul>                                   |
| 6 2例                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>■看取りに入る時、ご本人やご家族に説明する時の工夫</li> <li>■お見送りの時の工夫</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末のしおり(看取りを行うかの有無)、実際ご家族等の要望希望にそって、日々過していただくよう行っています。</li> </ul>                                                                                                                                                                                     |

|   | 看取り介護の実績 | 看取り介護の今の取り組み<br>(具体的内容)                                                                              | 今後の取り組み予定                                                                                                                                                                                                               |
|---|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7 | 1例(加算対象) | ■看取りに入る時、ご本人やご家族に説明する時の工夫<br>■研修会やふりかえりの時間を設ける等、スタッフケアの工夫                                            | ・ターミナル期には状態の変化に伴いカンファレンスを開催します。<br>・家族には日々の事をメールでお知らせすることにより、安心していただけるようです。<br><br>・年に1度、必ずターミナルケア研修を行い、職員に対する死生観教育を行っています。                                                                                             |
| 8 | 4例       | ■看取りに入る時、ご本人やご家族に説明する時の工夫<br>■研修会やふりかえりの時間を設ける等、スタッフケアの工夫<br>■お見送りの時の工夫<br>■看取り介護後のグリーフケア等、家族への対応の工夫 | ・医師とのカンファレンス前より状況について常にご家族等へ連絡、相談等を行っている。ご家族のご不安等をお聞きし対応する事で、看取りを自然な形で受け入れて頂く事ができる。<br><br>・新人職員等の精神的ケアとふりかえりながら行えるよう実践中である。しかしまだ課題があり検討中となっている。<br><br>・ケアプラン提示の際、ご家族やスタッフそれぞれの役割を明確にし、スタートしたいと考えている。説明等を丁寧に言うようにしている。 |

#### 【看取り介護に取り組んでいないと回答した3施設】

|   | 看取り介護の希望 | 取り組んでいない理由 (具体的内容)                                                                  | 今後の取り組み予定                             |
|---|----------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 1 | ない       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■医療体制が確保できない</li> </ul>                      | ない                                    |
| 2 | ない       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■医療体制が確保できない</li> </ul>                      | ある<br>(医療体制が確保できれば取り組みたい)             |
| 3 | ある       | <ul style="list-style-type: none"> <li>■施設の条件が整わない</li> <li>■医療体制が確保できない</li> </ul> | ある<br>(時期は未定だが、体制に合う医師が確保できた時点で開始したい) |

特別養護老人ホーム芦花ホームにおける  
「看取り介護」の調査研究報告書

---

平成 21 年 3 月

発行：社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団  
特別養護老人ホーム芦花ホーム

調査編集：場所づくり研究所 プレイス